

Modem Port

TR-57M

お買い上げありがとうございます。
取扱説明書をよくお読みのうえ、
正しくお使い下さい。



もくじ

取扱説明書に関する注意事項	3
ソフトウェアの利用規約	4
安全上のご注意	5
Modem Port TR-57M とは	7
パッケージ内容	9
各部の名称とはたらき	11
動作環境の確認	13
接続する電話回線について	15
回線図	17

はじめに

導入手順	19
モデムポートの設置	
・TR-7 シリーズ	21
・TR-5 シリーズ	23
パソコンの設置	26
インストール	27
ソフトウェアの使い方	29
モデムの設定	33
モデムポートの設定	34
警報設定	37
記録開始	41
記録データの吸い上げ	43
グラフ表示	47

基本的な使い方

携帯電話・PHS での通信方法	49
外部入力・外部出力	52
アンインストール	53
困ったときは	55
仕様	57
オプション	58
保証書(無料修理規定)	裏表紙

その他

取扱説明書に関する注意事項

この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解してからご使用下さい。

本書は再発行致しませんので、大切に保管して下さい。

製品本来の使用法および、取扱説明書に規定した方法以外での使い方に対しては、安全性の保証はできません。

本書の安全に関する指示事項には、必ず従って下さい。

取扱説明書の内容は、製品の性能・機能向上などによって将来予告なしに変更することがあります。

取扱説明書に記載した画面表示内容と、実際の画面表示が異なる場合があります。

図は一部を省略したり、抽象化して表現している場合があります。

取扱説明書の内容に関しては万全を期していますが、万一不審な点や誤り、記載漏れなどに気づいたときはご連絡下さい。

取扱説明書の全部または、一部を無断で転載、複製することを禁止します。

保証書（無料修理規定）をよくお読み下さい。（裏表紙）

Microsoft, Windows は米国 Microsoft Corporation の米国および、その他の国における登録商標です。

会社名、商品名は各社の商標または、登録商標です。

ソフトウェアの利用規約 (Modem Port for Windows®)

【免責事項】

1. 株式会社ティアンドデイは、Modem Port for Windows によりご利用者に直接または、間接的障害が生じて、いかなる責任賠償等も負わないものとします。
2. Modem Port for Windows はご利用者への事前の連絡なしに仕様を変更したり、サービスの提供を中止する場合があります。その場合、Modem Port for Windows をご利用頂けなかったり、ご利用者に直接または、間接的障害が生じた場合でも、株式会社ティアンドデイはいかなる責任賠償等も負わないものとします。
3. 株式会社ティアンドデイは、Modem Port for Windows に不備があっても、訂正する義務を負わないものとします。
4. 株式会社ティアンドデイは、Modem Port for Windows に関して一切動作保証を致しません。

【著作権】

1. Modem Port for Windows (プログラムおよび、関連ドキュメントを含める) の著作権は、株式会社ティアンドデイに帰属します。
2. Modem Port for Windows は無償でご利用いただけます。また、友人・お知り合い等営利を目的としない間柄での再配布は原則として自由です。但し、その場合であっても免責事項の規定は配布の相手方に対して効力を有するものとします。なお、営利目的を伴う再配布については下記3項に従って下さい。
3. 転載および、雑誌・商品などを添付して再配布する場合には、株式会社ティアンドデイの承諾を必要とします。再配布については、株式会社ティアンドデイ営業部までご連絡下さい。
4. Modem Port for Windows に改変を加えないで下さい。

安全上のご注意

安全にご使用いただくために、次の事項を必ず守って下さい。

⚠ 警告

本機は一般の民生・産業用として使用されることを前提に設計されています。

人命や危害に直接的または、間接的に関わるシステムや医療機器など、高い安全性が必要とされる用途にはお使いにならないで下さい。

本機の故障、誤動作または、不具合によりシステムに発生した付随的傷害などについては、当社は一切その責任を負いません。あらかじめご了承下さい。

内部に水や異物が入ると火災や感電の原因になります。万一、水や異物が入ってしまった時は、すぐに電源を切り、電源コードや専用電話回線接続ケーブルを抜いて下さい。

本機を当社指定の技術者以外の方が分解、修理、改造することは絶対に行わないで下さい。感電の危険があると共に故障の原因となります。

付属のACアダプタ・専用電話回線接続ケーブル以外を使うと、感電や故障、火災等の原因となることがありますので、指定のものをご使用下さい。

本機に付属されているモデムは日本国内専用です。海外などで本機を使用すると、故障・火災・感電の原因となります。また、本機の日本国外への持ち出しは、法令によって規制されていますので、ご注意下さい。

This Modem Port is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所で使用すると、火災や感電の原因になりますので、ご注意下さい。

本機をISDN（デジタル）対応公衆回線のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）の種類によっては、接続すると本機に必要な以上の電流が流れ故障・発熱・火災の原因となります。

特に、ホームテレホン・ビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないで下さい。一般公衆回線以外の回線に接続するときは、電話工事取扱業者へお問い合わせ下さい。

サーモレコーダを使用する前にサーモレコーダの取扱説明書をよくお読み下さい。

⚠ 取り扱い上の注意

本機を落としたり、強い衝撃を与えたりすると、故障の原因になることがあります。

コネクタは、斜めに差し込むと、ショートして火災や故障の原因となることがありますので、まっすぐに差し込んで下さい。また、コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらを確実に固定して下さい。

長期間使用しない時は、安全のためACアダプタをコンセントから抜いておいて下さい。

結露するような場所で使用しないで下さい。

温度差の激しい環境間を急に移動した場合は、結露する恐れがあります。

本機は、周囲温度：0～55 湿度：0～90%（結露しないこと）で使用して下さい。

濡れた手でACアダプタに触れないで下さい。感電の恐れがあります。

⚠ 設置場所の注意

直射日光下や高温多湿の場所で使用したり、保管しないで下さい。

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。

薬品や有害なガスにより本機等が腐食する恐れがあります。また、有害な物質が付着することにより人体に害をおよぼす恐れがありますので、薬品や有害なガス等の影響を受ける環境では、使用しないで下さい。

機械的振動が直接伝わる場所での使用は、振動等により接触不良になる恐れがありますので、安定した場所でお使い下さい。

強磁界を発生する装置の近くには設置しないで下さい。

Modem Port TR-57M とは、

【概要】

モデムポートは、ソフトウェア（Modem Port for Windows）とパソコンと電話回線とモデムポート本体によって構成されています。

離れた場所に設置してあるサーモレコーダの記録データを電話回線を使ってパソコンに吸上げることができます。

逆に、サーモレコーダ側から別地点のパソコンにデータを転送することもできます。

また、あらかじめ設定してある温度・湿度範囲を超えた場合、パソコンやポケットベル・携帯電話に警報を発信することができます。

【基本的な機能】

サーモレコーダTR-7シリーズ、TR-5シリーズの機能が従来通り全て使用できます。（TR-5シリーズの場合、Jr.ポートが必要です）

記録中でも現在温度・湿度を読み込むことができます。（P35-3）

Modem Port for Windowsをインストールすると同時にThermo Recorder for Windowsもインストールされます。

Thermo Recorder for Windowsで、記録したデータをパソコンでグラフや一覧表にして見ることができます。

また、表示されたグラフや一覧表は印刷・保存・テキストデータ出力することができます。（P29～）

記録データの吸い上げ方法には、3種類あります。（P43～）

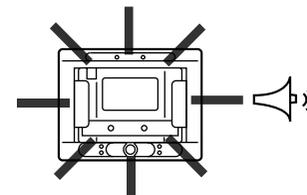
モデムポート本体についているボタンを押すと、データが転送される。

パソコンの設定で自動吸い上げができます。

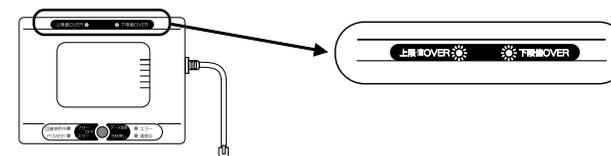
パソコンから好きな時にデータの吸い上げができます。

警報発信には、3種類あります。（P37～）

モデムポートのブザーを鳴らす。

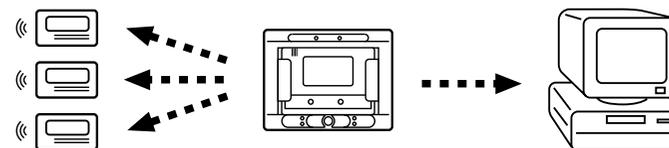


上下限值OVERランプが点灯する。



パソコンやポケットベル・携帯電話に通報する。

モデムポート1台につき、パソコン1台、ポケットベル・携帯電話3台まで設定が可能です。



携帯電話・PHSでも通信ができます。（P49～51）

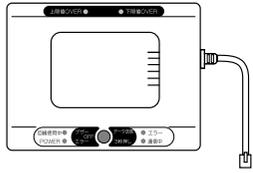
モデムポート付属のモデムカードをデータカードに交換することで、電話回線を引けない場所でも携帯電話・PHSを使いモデムポートとパソコンとの通信が可能です。

PHSカードを使用した時は、PHSカード以外とは通信できません。

外部出力・外部入力端子がついているので、センサやブザー、ライトなどを取りつけることができます。（P52）

パッケージ内容

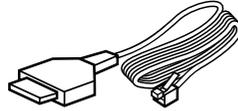
パッケージには以下のものが含まれております。



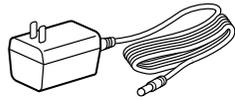
モデムポート TR-57M
1台



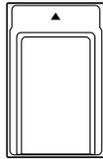
ソフトウェア 2枚
(Modem Port for
Windows®)



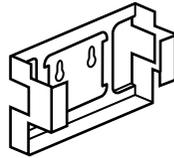
専用電話回線接続
ケーブル 1本



ACアダプタ AD-0602
1個



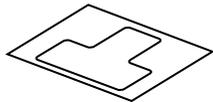
モデムカード 1枚
モデムカードは梱包時から
接続されています。



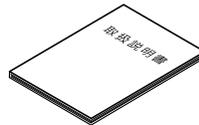
TR-7シリーズ用ポケット
1個



本体取付プレート 1個
(ネジ 2本付)



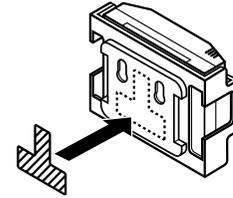
ポケット装着用シール
1枚



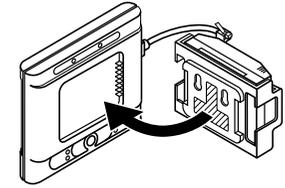
取扱説明書 1部
(保証書)

ポケットの使い方

付属のシールをポケット
の背面に貼り付けます。

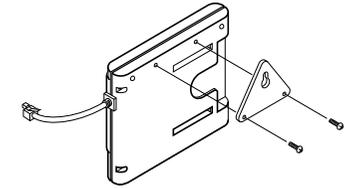


はくり紙をはがし、モデムポートに貼り付けます。
確実に密着するよう強く押しつけて下さい。



取付プレートの使い方

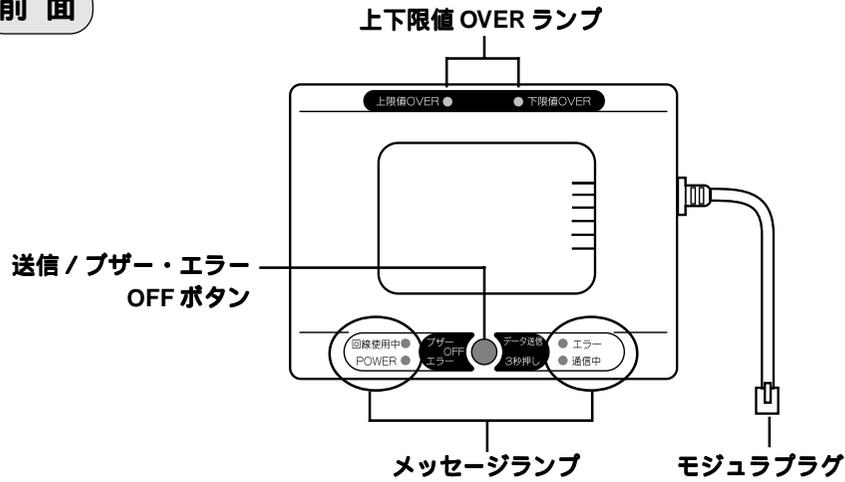
壁等に掛けて使用する場合、
取付プレートをご使用下さい。



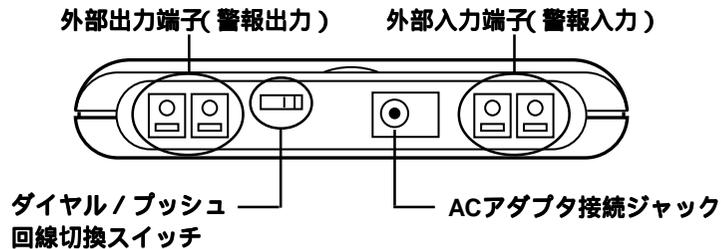
各部の名称とはたらき

【外観図】

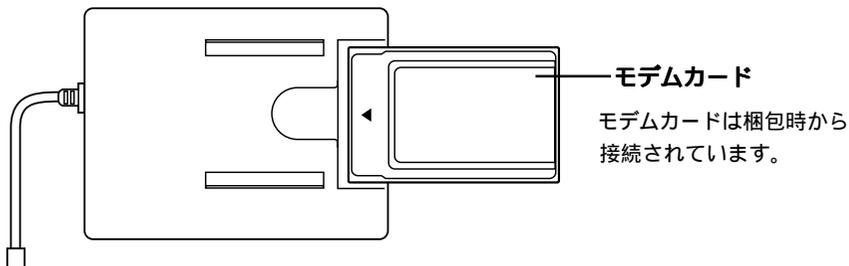
前面



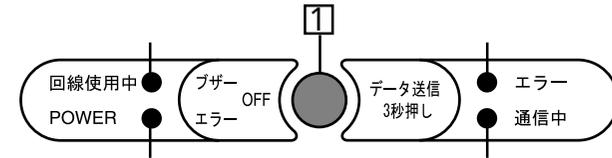
側面



後面



【操作部・表示部】



① 送信 / ブザー・エラー OFF ボタン

- ・モデムポートからパソコンにサーモレコーダの記録データを転送します。(3秒以上押す)
- ・エラーランプが点灯した時または、ブザーが鳴った時に押すとエラーが解除されます。

回線使用中ランプ POWERランプ エラーランプ 通信中ランプ

メッセージランプ表示の状態



	回線使用中 ランプ	POWER ランプ	エラー ランプ	通信中 ランプ
ダイヤル中	点滅	点灯	点灯	点灯
パソコンと通信中	点灯	点灯	点灯	点灯
サーモレコーダと通信開始	点灯	点灯	点灯	点滅
サーモレコーダと通信中	点灯	点灯	点灯	点灯
通信異常終了 (パソコンとの通信)	点滅	点灯	点灯	点灯
通信異常終了 (サーモレコーダとの通信)	点灯	点灯	点灯	点滅

その他メッセージランプ表示

『POWER 点灯』と『エラー 点滅』の場合は、異常のため電源を入れ直して下さい。
『POWER 点滅』の場合は、コンセントまたは、ACアダプタに異常がありますので、確認して下さい。

動作環境の確認 (パソコン側)

モデムポートを使用する場合、次の構成が必要となります。

【パソコン】

- OS : Microsoft® Windows® 95/98 日本語版
- メモリー : 16MB 以上推奨
- ディスプレイ : 256 色以上表示可能な機種

【DTEインターフェイス】(下記のいずれかに適合していること)

- シリアルポート (RS-232C インタフェイス)
- PC カードスロット (PCMCIA)
- 内蔵モデム

【モデム】

- 2400bps 以上でヘイズ AT コマンド互換の機種
- 通信方式 : ITU-T V.22bis/V.32/V.32bis のいずれかに適合
- DTE インタフェイスを備えている
- Microsoft® Windows® 95/98 日本語版にインストール可能な機種

【通信回線】

- アナログ 2 線式一般公衆回線
 - ・一般家庭等で使用する NTT の引込み線
- アナログ 2 線式一般公衆回線以外
 - ・ISDN 回線 : PSV・ターミナルアダプタ (アナログポート付) が必要
 - ・構内交換機 (PBX)
 - ・デジタル携帯電話

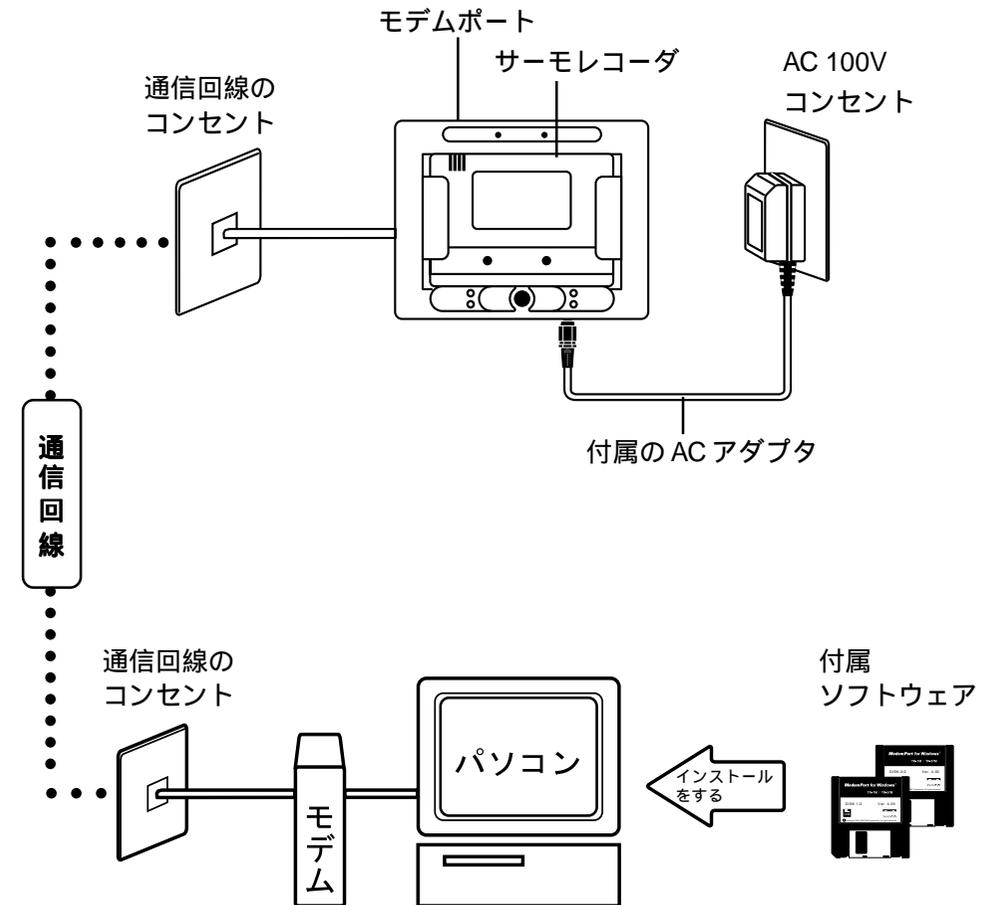
アナログ 2 線式一般公衆回線以外を使って通信を行う場合、次の条件が必要です。

- ・使用するモデムに接続できる
- ・使用するモデムが送出するダイヤル信号を確認し、通信相手呼び出せる
- ・使用するモデムが認識できる呼び出し信号を送出できる
- ・モデムのデータを伝送できる (ITU-T V.22bis/V.32/V.32bis のいずれかに適合)

【サーモレコーダ】

モデムポート適合機種...TR-7 シリーズ・TR-5 シリーズ (Jr. ポートが必要)

接続イメージ図



パソコンとモデムは送受信ができるか事前に確認しておいて下さい。

接続する通信回線の確認（モデムポート側）

モデムポートでは、一般公衆回線を使用します。

モデムポートは、通常の電話回線（一般家庭等で使用されているアナログ2線式のNTT引き込み線）に接続する様に設計されています。

お使いの電話回線の種類をご存じですか？

電話回線の種類には、ダイヤル回線とプッシュ回線があります。

回線の種類によってモデムポート、通信ソフトの設定が違ってきます。

この設定が違っていると通信ができません。

- ・ダイヤル回線...電話機でダイヤルする時に「カチカチ」と機械音がする。
- ・プッシュ回線...電話機でダイヤルする時に「ピポパ」と電子音がする。

モデムポートとパソコンの両方の電話回線を確認して下さい。

お使いの電話回線の種類が分からない場合は、NTT(116番)へお問い合わせ下さい。

一般公衆回線（アナログ回線）以外の回線をご使用の方は、

ISDN・ビジネステレホン・ホームテレホン等の回線をご使用の場合、そのままではモデムポートを接続することはできません。一般公衆回線に準拠した回線に変換して下さい。

△ 注意

構内交換機（PBX）または、TAのアナログポートをお使いの場合、交換機の種類によってはモデムポートまたは、交換機が壊れる恐れがあります。一般公衆回線以外の回線に接続するときは、電話工事取扱業者へお問い合わせ下さい。

【次のようなときは、構内交換機を使用している可能性があります】

- ・電話機が2台以上あり、電話機間での内線通話ができる。
- ・外線発信するときに、はじめに「0」や「9」などをダイヤルする。
- ・電話機に外線ボタンが付いている。

電話回線コンセントはモジュラジャック式ですか？

モデムポートを設置する場所の電話回線コンセントがモジュラジャック式であれば、簡単にモジュラケーブルで接続することができます。

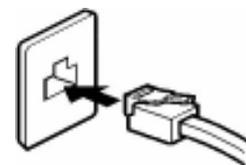
それ以外の場合は、接続できない場合がありますので最寄りのNTT(116番)または、電話工事取扱業者へご相談下さい。

【電話回線コンセントの種類】

電話回線コンセントの種類には、次の3種類があります。お使いの電話機が接続されているコンセントの種類を確認して下さい。また、コンセントの種類によっては、そのままでは接続できない場合があります。

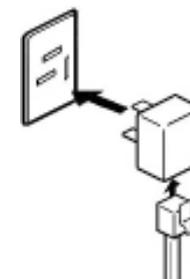
モジュラジャック式

直接接続することができます。



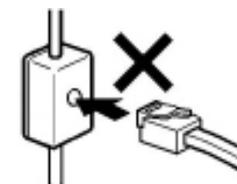
3ピンプラグ式コンセント

市販の3ピンプラグ変換アダプタをお求めいただくか、NTTにモジュラジャックの取り付けをご相談下さい。



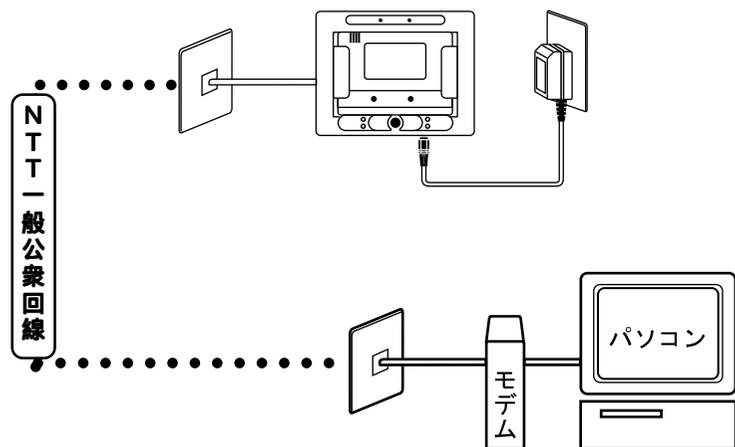
直結配線方式

モジュラ式のコンセントに変更する必要があります。NTTまたは、電話工事取扱業者へモジュラジャックの取り付けをご相談下さい。



回線図

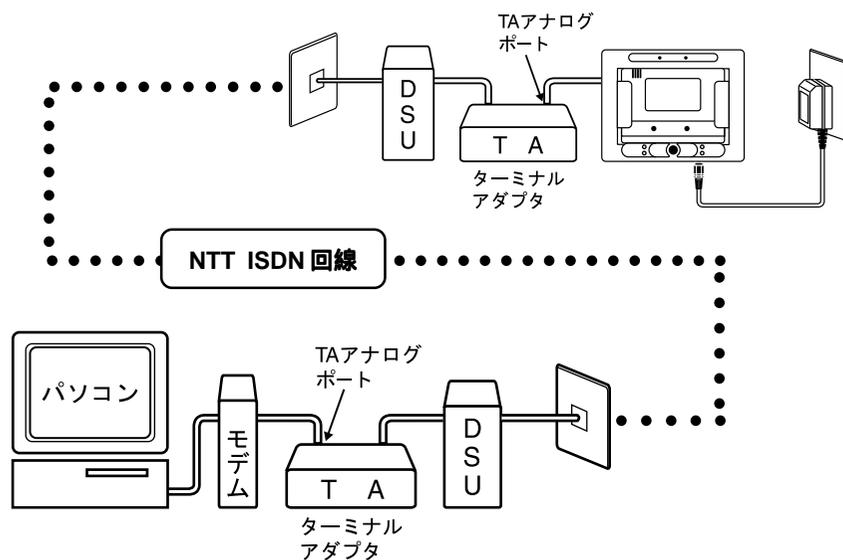
【一般回線の場合】



【ISDNの場合】

△ 注意

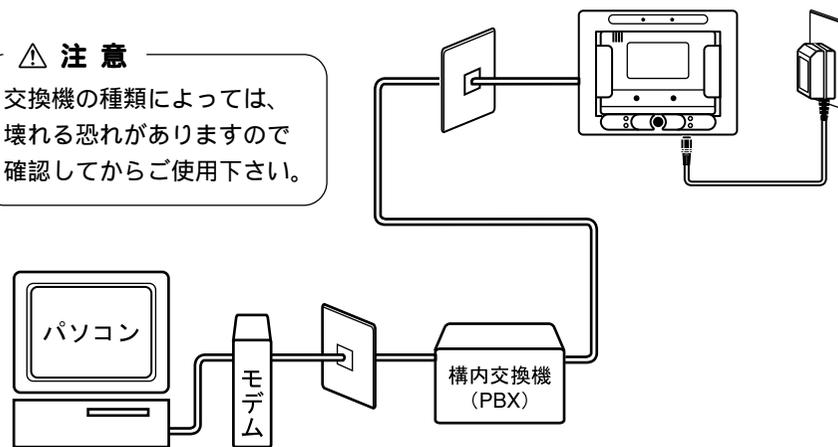
交換機の種類によっては、壊れる恐れがありますので確認してからご使用下さい。



【構内交換機の場合】

△ 注意

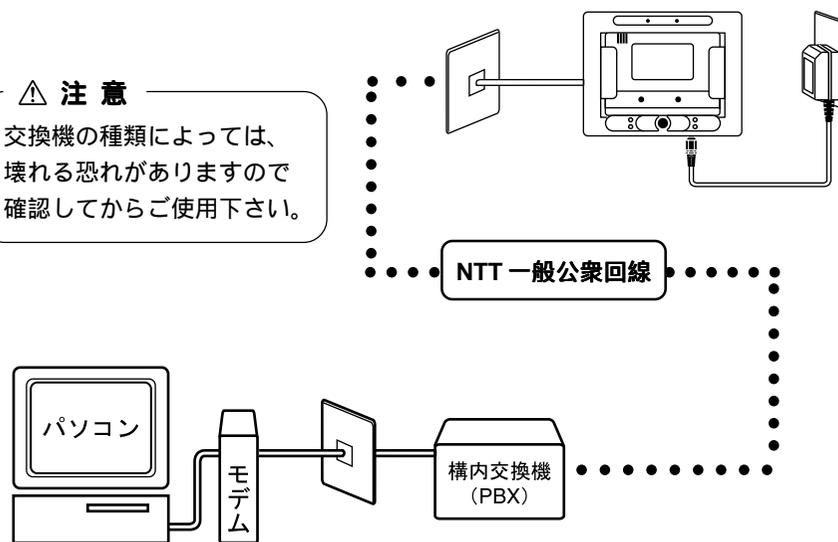
交換機の種類によっては、壊れる恐れがありますので確認してからご使用下さい。



【構内交換機と一般回線】

△ 注意

交換機の種類によっては、壊れる恐れがありますので確認してからご使用下さい。



導入手順

1. モデムポートを設置します

TR-7 シリーズの場合・・・P 21 ~

TR-5 シリーズの場合・・・P 23 ~

TR-5 シリーズの場合は、Jr. ポートが必要です。
電話回線の種類を確認し、正しく接続して下さい。



2. パソコンを設置します・・・P 26

使用するモデムをパソコン(Windows)にインストールし、モデムが使用できることを確認しておいて下さい。
接続方法はパソコンまたは、モデムの取扱説明書を参照して下さい。



3. Modem Port for Windows® をインストールします・・・P 27 ~

Modem Port for Windows をインストールすると同時に、Thermo Recorder for Windows もインストールされます。

Windows 95/98 が正常に動作しないと、Modem Port for Windows も正常にインストールまたは、起動できないことがあります。
インストールの前に他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させて下さい。



4. モデムの設定をします・・・P 33

Modem Port for Windows で使用するモデムの設定をします。



5. モデムポートの設定をします・・・P 34 ~

モデムポートが接続されている回線の電話番号を設定します。
使用するモデムポートの動作条件の設定をします。



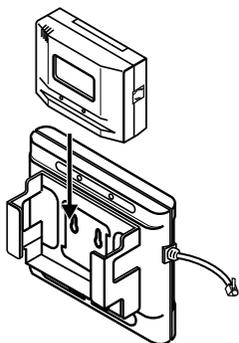
6. モデムポートに転送先の電話番号を設定します

警報発信または、モデムポートからデータの転送を行う場合に必要です。
ポケットベルまたは、携帯電話に警報発信する場合、発信先の電話番号を設定します。

モデムポートに防水機能はありません。水のかかる場所では使用しないで下さい。

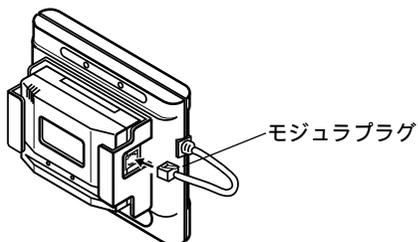
1. サーモレコーダをセットします。

サーモレコーダの電源を入れてからセットして下さい。



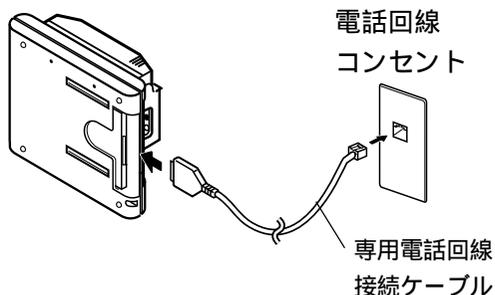
2. モデムポートのモジュラプラグをサーモレコーダに接続します。

接触不良が起きないように「カチッ」と音が鳴るまで差し込んで下さい。

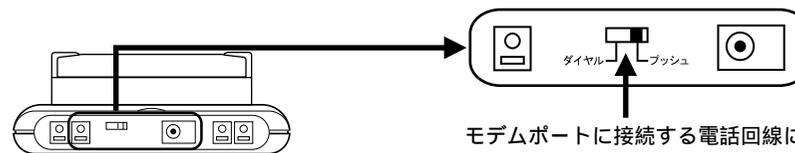


3. 専用電話回線接続ケーブルをモデムポートと電話回線コンセントに接続します。

ケーブルは、接触不良が起きないように確実に差し込んで下さい。



4. 電話回線の種類(ダイヤル/プッシュ)を選択します。



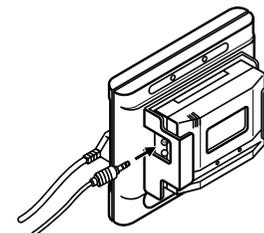
モデムポートに接続する電話回線に合わせて切り換えて下さい。

電話回線の種類が分からない時は、NTT(116番)または、構内交換機取付販売店へお問い合わせ下さい。

5. 温度・湿度センサを接続します。

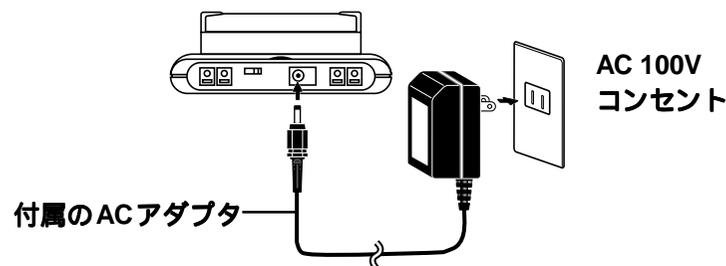
本体の内蔵センサでは、モデムポートの温度が高くなるので、正確な温度測定ができません。必ず、外部温度センサを使用して下さい。

センサは、確実に差し込んで下さい。



6. 本体にACアダプタを接続します。

ACアダプタのプラグは、接触不良が起きないように確実に差し込んで下さい。



⚠ 警告

ACアダプタは、AC 100V コンセントに差し込んで下さい。他の電圧の場合、火災等が発生する恐れがあります。

ACアダプタを抜き差しする時は、水滴が付着した状態または、濡れた手でプラグに触れないで下さい。感電する恐れがあります。

付属のACアダプタ以外は使用しないで下さい。火災等が発生する恐れがあります。

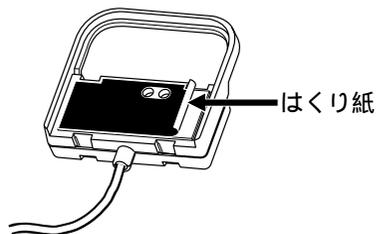
モデムポートの設置

TR-5シリーズの場合

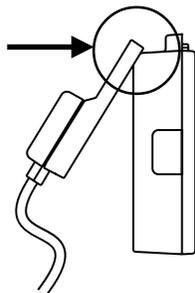
Jr.ポートおよび、モデムポートに防水機能はありません。水のかかる場所では使用しないで下さい。

1. サーモレコーダは、電池を入れ測定できる状態にしておきます。
2. サーモレコーダに Jr. ポートを取り付けます。

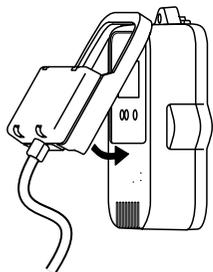
Jr. ポートの両面テープのはくり紙をはがします。



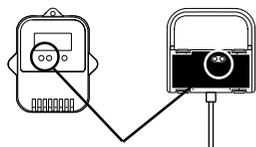
サーモレコーダの上の部分に掛けるように合わせます。



Jr. ポートをサーモレコーダに貼り付けます。
確実に密着するよう強く押しつけて下さい。



△ 注意

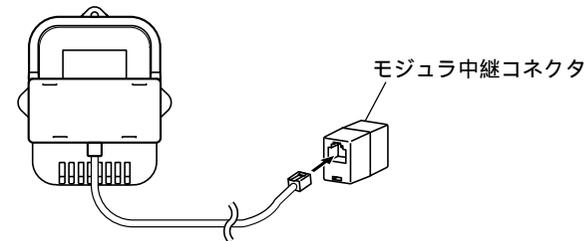


受光・発光部
両方の受光・発光部が重なるように取り付けて下さい。

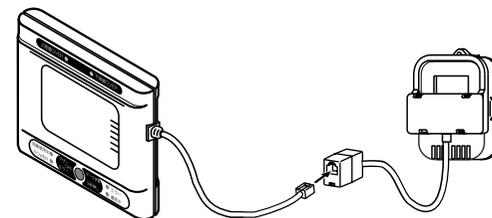
3. Jr. ポートにモデムポートを接続します。

接触不良が起きないように「カチッ」と音が鳴るまで差し込んで下さい。

Jr. ポートのモジュラプラグをモジュラ中継コネクタに差し込みます

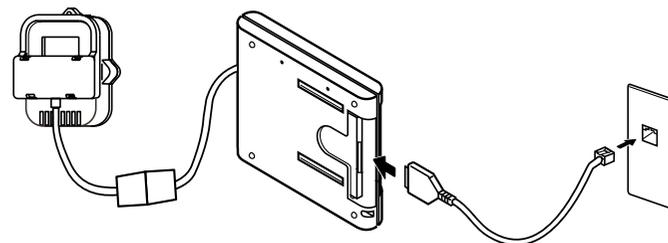


モデムポートからのモジュラプラグをモジュラ中継コネクタへ差し込みます。



4. 専用電話回線接続ケーブルをモデムポートと電話回線コンセントに接続します。

ケーブルは、接触不良が起きないように確実に差し込んで下さい。



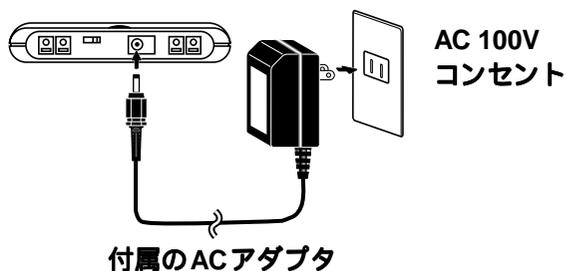
5. 電話回線の種類 (ダイヤル / プッシュ) を選択します。



電話回線の種類が分からない時は、NTT(116番)または、構内交換機取付販売店へお問い合わせ下さい。

6. 本体に AC アダプタを接続します。

AC アダプタのプラグは、接触不良が起きないように確実に差し込んで下さい。



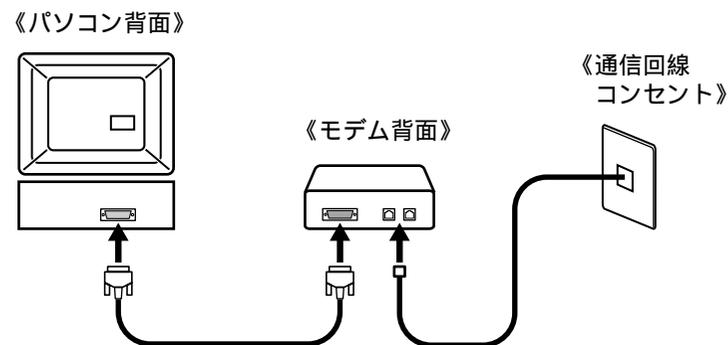
⚠ 警告

AC アダプタは、AC 100 V コンセントに差し込んで下さい。
他の電圧の場合、火災等が発生する恐れがあります。

AC アダプタを抜き差しする時は、水滴が付着した状態または、濡れた手でプラグに触れないで下さい。感電する恐れがあります。

付属の AC アダプタ以外は使用しないで下さい。火災等が発生する恐れがあります。

パソコンの設置



1. パソコンにモデムを接続します。

モデムが内蔵されているパソコンはモデムの接続は必要ありません。

2. モデムと電話回線をつなぎます。

3. モデムの電源を入れます。

4. パソコンの電源を入れ、Windows を起動します。

5. パソコン (Windows) にモデムがインストールされているか確認して下さい。 インストールされていない場合は、インストールを行なって下さい。

6. Windows 上でモデムが使用できるか確認して下さい。 パソコンとモデムは、送受信できるようにしておいて下さい。

詳しい接続方法は、パソコンまたは、モデムの取扱説明書を参照して下さい。

インストール

1. インストールする前に、次のことを確認しておいて下さい。

Windows は正常に動作しますか？

Windows95/98 が正常に動作しないと、Modem Port for Windows も正常にインストールまたは、起動できないことがあります。

アプリケーションを終了して下さい。

インストールの前に他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させて下さい。

モデムを Windows に登録してありますか？

使用するモデムをあらかじめ「コントロールパネル」の「モデムのプロパティ」に登録しておく必要があります。使用するモデムが登録されていないと、正常に通信することができませんので、Windows の取扱説明書または、モデムの取扱説明書を参照して必ず登録して下さい。

2. 付属のソフトウェア (Modem Port for Windows®) をインストールします。

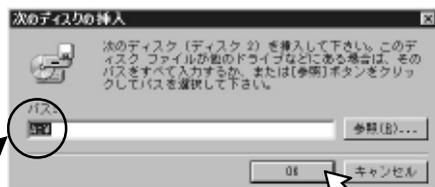
Windows を起動します。

付属のフロッピーディスク (1/2) をフロッピードライブに挿入します。

フロッピーディスクより、「SETUP.EXE」を実行します。

内容を確認しながら、指示に従ってインストールを行って下さい。

「次のディスクの挿入」の画面が表示されたら、2枚目のフロッピーディスク (2/2) を挿入し、[OK] ボタンをクリックします。

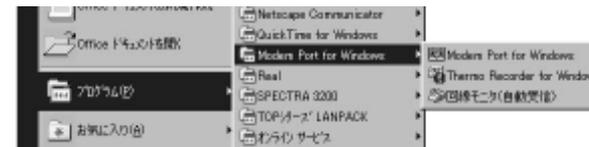


「パス:」に表示されているドライブ名 (A: ¥) がフロッピーディスクを挿入したドライブ名と異なる場合は、直接ドライブ名を入力するか、[参照] ボタンをクリックし、フロッピーディスクを入れたドライブを選択後、[OK] ボタンをクリックして下さい。

[終了] ボタンをクリックすると、インストールが完了します。



インストールが完了すると、スタートメニューのプログラムに「Modem Port for Windows」が登録されます。



ソフトウェアの使い方

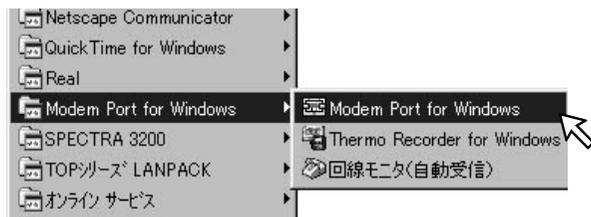
本ソフトウェアは、『Modem Port for Windows』、『Thermo Recorder for Windows』、『回線モニタ』の3つのソフトウェアで構成されています。

Modem Port for Windows

パソコンからモデムポートに警報やデータの転送先の設定をしたり、モデムポートに接続されたサーモレコーダの温度・湿度の記録スタートまたは、記録解除などの設定、記録データの吸い上げをすることができます。

【Modem Port for Windowsの起動】

1. Windowsのスタートメニューのプログラムの中から『Modem Port for Windows』を選択します。
2. さらに表示されたメニューから、『Modem Port for Windows』をクリックします。



3. 『Modem Port for Windows』が起動します。
4. メイン画面が表示されます。

【メイン画面の名称とはたらき】

詳しくは、ソフトウェアのヘルプで説明していますので、そちらを参考にして下さい。



メニューバー

コマンドが格納されているメニューが並んでいます。各メニューをクリックすると、プルダウンメニューが表示され、コマンドを選択できます。詳しくは、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ツールバー

使用頻度の高いコマンドをボタン化しています。

- ...記録データファイルの一覧
- ...Thermo Recorder for Windowsの起動
- ...通信履歴
- ...警報履歴
- ...設置場所をすべて選択
- ...設置場所を選択解除

グループフォルダ

登録してあるグループ名を表示します。

開いているフォルダ

選んだグループの設置場所の詳細を表示します。

自動吸い上げ設定表示

自動吸い上げが設定してあるかを表示します。

グループ作成ボタン

新規グループの作成画面を表示します。

設置場所の登録/編集ボタン

設置したモデムポートの登録画面を表示します。

Thermo Recorder for Windows

吸い上げた記録データをパソコン上で見ることができます。

TR-5/TR-7シリーズの温度・湿度データを混合処理

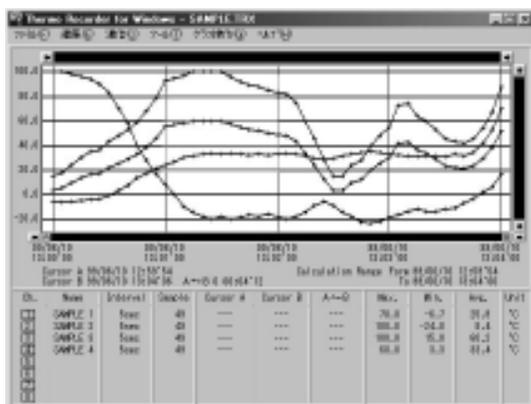
温度・湿度データ8チャンネル同時処理

マウスで簡単、多彩なグラフ表示

算出有効範囲設定で指定した期間のグラフ表示・算出処理

最高・最低・平均を自動計算

テキストファイル出力で市販の計算表ソフトウェアの利用可能



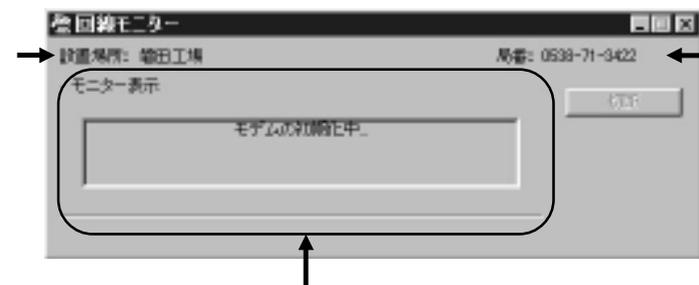
詳しくは、サーモレコーダの取扱説明書をご覧ください。

回線モニタ (自動受信)

『Modem Port for Windows』が起動すると、同時に回線モニタも起動します。モデムポートとパソコン間での通信を行い、通信状態を表示しているものです。この回線モニタが起動していれば、自動吸い上げ・パソコンへ警報を送ることができます。

通信を開始すると表示され、通信が終了すると最小化表示になり、タスクバーに表示されます。

【回線モニタ画面の名称とはらたき】



設置場所

現在通信中の設置場所名を表示します。

局番

現在通信中の電話回線番号を表示します。

モニター表示

現在の通信状態を表示します。

モデムの設定

パソコンに接続してあるモデムの設定をします。

1. メニューより「回線/モデムの設定」 - 「回線/モデムの設定」をクリックします。



2. 設定画面が表示されるので、各条件の確認をします。



モデム名：登録一覧の中から Modem Port で使用するモデムが自動的に表示され、同時に通信ポートの設定が切り替わります。

回線設定：プッシュまたは、パルス（ダイヤル）をチェックします。
構内交換機（PBX）を使用している場合は、「外線発信番号：」を入力します。
（「0」、「9」など）

各条件をチェック後、[設定]ボタンをクリックすると設定が完了し、メイン画面に戻ります。

接続オプション欄は、通常変更する必要はありません。
特別に設定を変える場合のみ変更するようにして下さい。

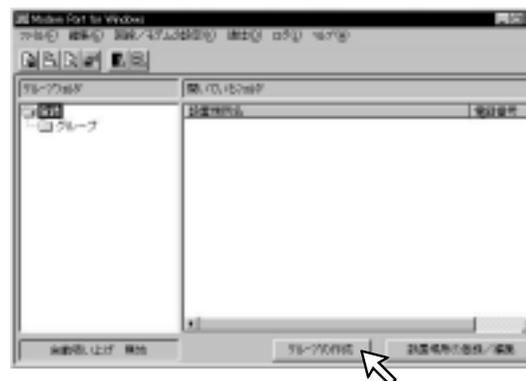
モデムポートの設定

1. グループを作成します。

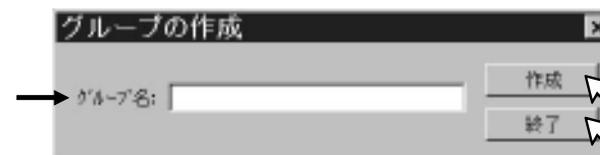
同一グループ内に複数のモデムポートの設置場所を登録しておく記録開始や吸い上げが一括でできます。

一度作成したグループのグループ名の変更はできません。

メイン画面下の[グループの作成]ボタンをクリックします。



グループの作成画面が表示されるので、グループ名を入力します。



グループ名を入力したら、[作成]ボタンをクリックするとグループが作成されます。

複数作成する場合は、同じ要領で続けて下さい。

[終了]ボタンをクリックするとメイン画面に戻ります。

2. 設置したモデムポートの登録をします。

メイン画面の右下にある [設置場所の登録 / 編集] ボタンをクリックすると、登録画面が表示されます。



グループ名：登録するグループ名を選択します。

設置場所名：モデムポートを設置してある場所名を入力します。

電話番号：モデムポートが接続されている電話回線の電話番号を、半角で入力します。

入力が終了したら、[登録]ボタンをクリックすると登録が完了します。

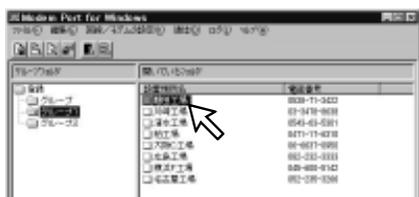
複数登録をする場合は、同じ要領で続けて下さい。

[終了]ボタンをクリックするとメイン画面に戻ります。

3. 通信のテストをする。

モデムポートとの通信ができるか確認する為に現在値を表示させてみます。

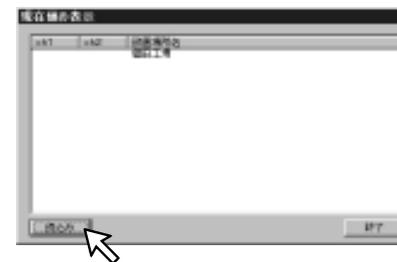
テストしたい場所名をクリックします。



メニューより「通信」-「現在値の表示」をクリックします。



[読み込み]ボタンをクリックすると回線モニターが表示され、通信を開始します。



通信の結果が表示されます。



《通信が失敗した場合のメッセージ》



[終了]ボタンをクリックするとメイン画面に戻ります。

警報設定

測定した温度・湿度が設定した上・下限値外になった場合に本体のブザーを鳴らしたり、パソコン・ポケットベル・携帯電話に知らせることができます。

- ・ブザーを鳴らす（本体のブザーが鳴り知らせる）
- ・電話で通報する（パソコン・ポケットベル・携帯電話にメッセージを送信する）

1. 本体ブザーで知らせる場合の設定。

警報設定を行う場所を指定し、クリックします。

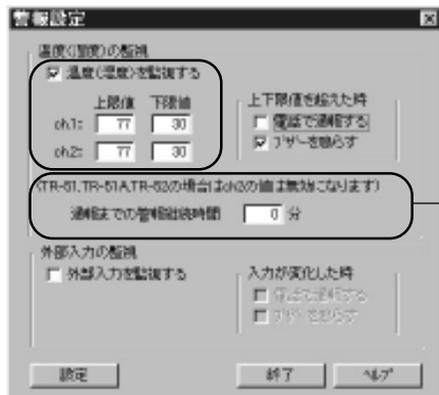


メニューより「通信」-「警報設定」をクリックします。



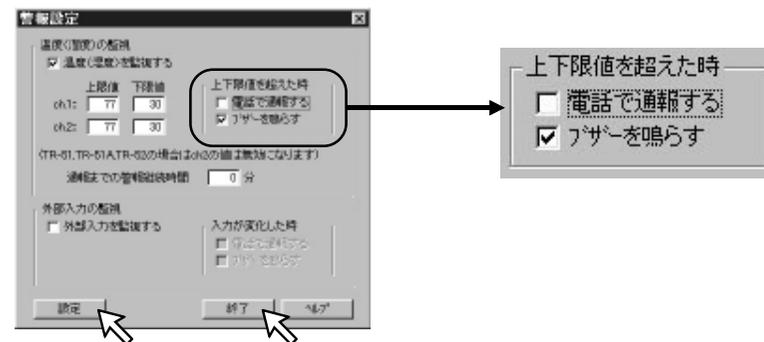
「温度（湿度）を監視する」をチェックし、上下限値を入力します。

- ・上下限値...測定温度が上下限値の範囲外になると警報を発信します。



通報までの警報継続時間...
何分間継続的に測定温度が上下限値の範囲外になったら通報をすることができます。

『ブザーを鳴らす』をチェックします。



入力が終了したら[設定]ボタンをクリックします。

回線モニタが表示され、通信を開始します。

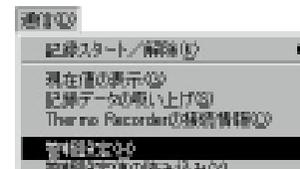
通信が終了したら[終了]ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。

2. パソコン・ポケットベル・携帯電話にメッセージを送信する場合の設定。

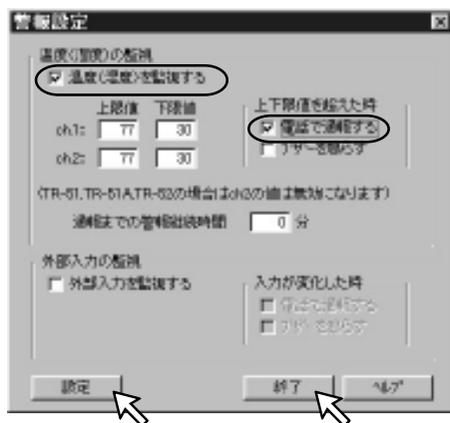
警報設定を行う場所を指定し、クリックします。



メニューより「通信」-「警報設定」をクリックします。



「温度(湿度)を監視する」と「上下限界を超えたとき:電話で通報する」をチェックします。



その他 各条件の入力をします。

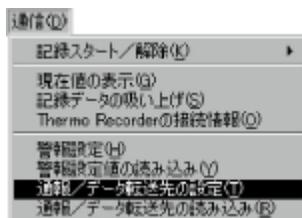
- ・温度(湿度)の監視...測定温度が上下限界の範囲外になると警報を発信します。
- ・通報までの警報継続時間...何分間継続的に測定温度が上下限界の範囲外になったら通報をするか設定します。

入力が終了したら[設定]ボタンをクリックします。

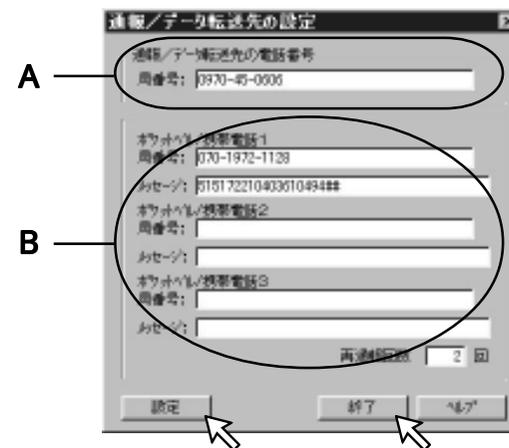
回線モニタが表示され、通信を開始します。

通信が終了したら[終了]ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。

メニューより「通信」-「通報/データ転送先の設定」を選択します。



通報先の電話番号を入力します。



パソコンに通報する場合は、Aの局番号に入力します。

(通常このソフトが動作しているパソコンに接続している電話回線の番号を入力して下さい)

ポケットベル・携帯電話に通報する場合は、Bの局番号に入力します。

半角32文字以内の数字・記号が入力できます。

モデムポートが構内交換機(PBX)を使用している場合は、外線発信番号を入力して下さい。(「0」、「9」、「」など)

【ポケットベル・携帯電話の場合は、メッセージを送ることができます。】

メッセージは、半角32文字以内の数字・記号(*・!・,)が入力できます。

入力出来るメッセージは、ポケットベル・携帯電話で使用できるものに限りますので、ポケットベルの取扱説明書をご覧ください。

携帯電話の場合、別途メールサービスに加入している必要があります。

Eメールは使用できません。

入力が終了したら、[設定]ボタンをクリックすると、回線モニタが表示され、通信を開始します。

通信が終了したら、[終了]ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。

記録開始

1. パソコンからの操作で記録を開始する。

記録を行う場所を指定し、クリックします。



メニューより「通信」-「記録スタート/解除」をクリックします。



設定画面が表示されたら、各条件を入力します。



【記録条件の項目について】

記録開始方法：予約スタート...指定した日時から記録を開始する。
即時スタート...開始日時を指定せず、すぐに記録を開始する。

記録方式：ワンタイム方式...記録データ数が、記録可能データ数に達すると記録を停止します。

エンドレス方式...記録データ数が、記録可能データ数を越えた場合一番古いデータへ上書きし、記録を続けます。

記録可能データ数はご使用のサーモレコーダの取扱説明書をご覧ください。

各条件の入力が終了したら、[設定]ボタンをクリックします。

回線モニタが表示され、通信を開始します。

通信が終了したら、[終了]ボタンをクリックします。

設定が完了し、メイン画面に戻ります。

2. サーモレコーダからの操作で記録を開始する (TR-7シリーズのみ)

本体の REC/STOP ボタンを 3 秒間押しすと記録を開始します。

詳しくは、ご使用のサーモレコーダの取扱説明書をご覧ください。

記録を停止したい場合 (TR-7シリーズのみ対応)

パソコンからの操作で停止をする場合

「記録スタート/解除」画面の[設定解除]ボタンをクリックすると記録が停止します。

サーモレコーダからの操作で停止をする場合

[REC/STOP]ボタンを 3 秒間押し続けると記録が停止します。

記録中に記録条件の確認をする (TR-7Sシリーズのみ対応)

「記録スタート/解除」画面の[設定値受信]ボタンをクリックするとモデムポートと通信が開始され、設定されている記録条件を表示します。

記録データの吸い上げ

吸い上げた記録データは、「Trm Win」フォルダの「吸い上げデータ」のグループ名フォルダ「自動」または、「手動」中に保存されます。
データは他のデータとリンクされていますので移動しないで下さい。

1. 本体ボタンの操作によって記録データの転送を行う場合

前もってデータの転送先を設定を行なって下さい。

「警報設定」- 2 - 「パソコンに通報する場合」を参照して下さい。

本体の赤いボタンを「ピー」と音が鳴るまで押し続けます。(3秒間)



「回線使用中」のランプが点滅し、パソコンと通信を開始します。



「通信中」ランプが点灯し、サーモレコーダと通信を開始します。



サーモレコーダとの通信が終了すると、「ピー」と音が鳴り「通信中」のランプが消え、データ吸い上げが完了します。

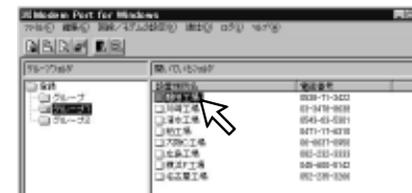


複数のサーモレコーダのデータ転送を行う場合は、30秒以内にサーモレコーダをつなぎ変え、赤いボタンを押すと、再度パソコンと通信を開始します。

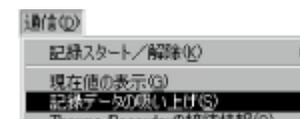
パソコンとの通信が終了すると、約30秒後「回線使用中」のランプが消え、回線が切れます。

2. パソコンより記録データの吸い上げを行う場合

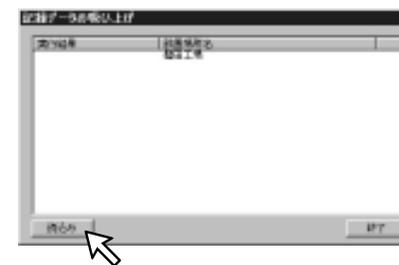
吸い上げを行う場所を指定し、クリックします。



メニューより「通信」-「記録データの吸い上げ」をクリックします。

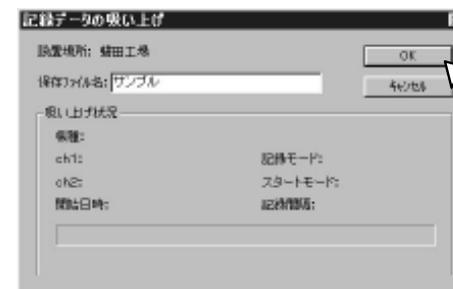


吸い上げをする場所名が表示されます。[読み込み]ボタンをクリックします。



記録データの吸い上げ画面が表示されます。

保存ファイル名を入力し、[OK]ボタンをクリックすると、回線モニタが表示され、吸い上げを開始します。



吸い上げ結果が表示されます。

複数の場所を設定した場合は、 の動作を繰り返して下さい。

吸い上げが終了したら、[終了]ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。

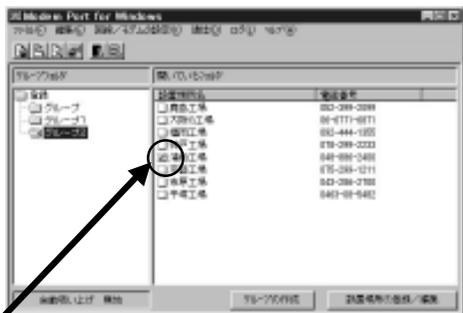


3. 自動で記録データの吸い上げを行う場合

△ 注意

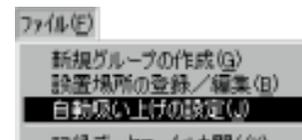
自動で記録データの吸い上げを行う場合、回線モニタが起動している状態でなければ動作しませんので、ご注意ください。

自動吸い上げの設定になっているか、確認します。

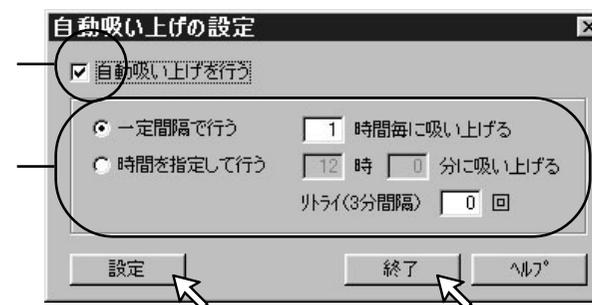


✓チェックが付いているものが、自動吸い上げの対象になります。チェックが付いていない場合は、31ページを参照して下さい。

メニューより「ファイル」-「自動吸い上げの設定」をクリックします。



「自動吸い上げを行う」をチェックします。



吸い上げ方法を決め、各条件を入力します。

一定間隔で行う...指定された時間毎に吸い上げをします。

時間を指定して行う...毎日指定された時間に吸い上げを行います。

リトライ : パソコンとの通信が出来なかった場合、設定された回数分リダイヤルします。

各条件の入力が終了したら、[設定]ボタンをクリックします。

[終了]ボタンをクリックすると、メイン画面に戻ります。

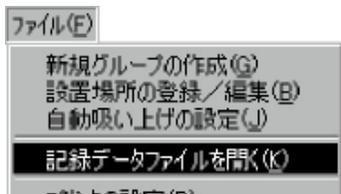
メイン画面で自動吸い上げの設定状態が分かるようになっていきます



グラフ表示

吸い上げたデータをグラフ表示します。

1. 「ファイル」メニューより「記録データファイルを開く」をクリックします。



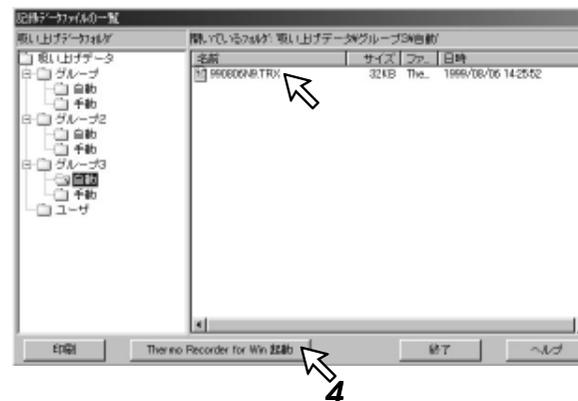
2. グラフ表示したいファイルのグループを指定します。

自動：自動吸い上げを設定し、データ吸い上げをした場合
モデムポートの赤ボタンを押し、データをパソコンに転送した場合
1) モデムポートから記録データを転送した場合は、インストール時から登録されているグループの「自動」に保存されます。

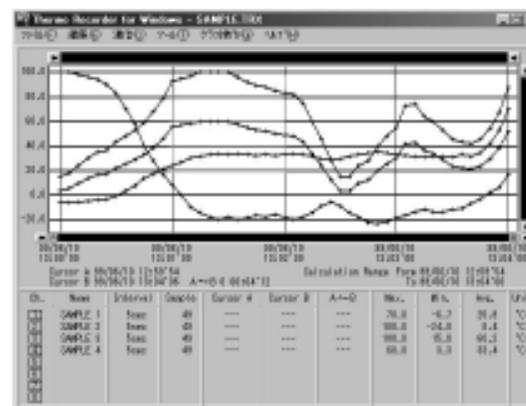
手動：パソコンより手動で、データ吸い上げをした場合
（「通信」 - 「記録データの吸い上げ」で吸い上げた場合）



3. グラフ表示したいファイル名を指定し、クリックします。



3. [Thermo Recorder for Win 起動]ボタンをクリックします。



グラフの操作方法は、Thermo Recorder for Windowsのヘルプをご覧ください。

携帯電話・PHS を使い通信をする

データカードを使う事により、携帯電話・PHSでの通信が可能です。

モデムポートを携帯電話または、PHSで使用する場合は、モデムカードと携帯電話用または、PHS用のデータカードと取り替える必要があります。

【モデムポート対応品（動作検証済機器）】

- ・デジタルセルラーアダプターカード：DP9600（TDK 製）
- ・データカード：DC-1P（NTT パーソナル）

上記以外のカードを使用した場合、正常に動作しない場合があります。またカードを破損する恐れがありますので、ご注意ください。

使用できる電話機につきましては、販売店・メーカーにお問い合わせ下さい。

【通信回線の組み合わせ】

パソコンからモデムポートへ通信する場合

モデムポート パソコン	モデムカード	携帯 & データカード	PHS & データカード
モデム			×
携帯 & データカード			×
PHS & データカード	1	×	
T A	×	×	2

モデムポートからパソコンへ通信する場合

モデムポート パソコン	モデムカード	携帯 & データカード	PHS & データカード
モデム			1
携帯 & データカード			×
PHS & データカード	×	×	
T A	×	×	2

1 PTE 経由のみ可能。

2 TA に PIAF 機能がある場合のみ可能。

モデムポートからポケットベル等へ警報発信をする場合

モデムポート 着信先	モデム	携帯 & データカード	PHS & データカード
ポケットベル			×
PHS	着信番号のみ表示	着信番号のみ表示	×
携帯ショートメール			×

【カードの交換方法】

1. モデムポートに接続してある AC アダプタを抜き、電源を切ります。

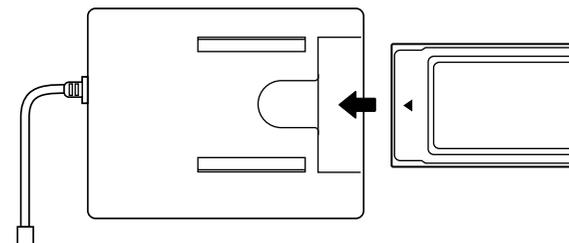
△ 注意

データカードと他の機器を接続する時は、機器の電源を切った状態で行って下さい。電源を入れたまま接続すると、故障の原因となり発煙、発火の可能性があります。

2. モデムポートに接続してある付属のモデムカードを抜きます。

3. 携帯電話または、PHS用のデータカードを差し込みます。

データカードに印刷されている矢印の面を手前にし、データカードが止まるまで確実に差し込んで下さい。



カードと電話機の接続はカードの取扱説明書に従って下さい。

外部入力・外部出力

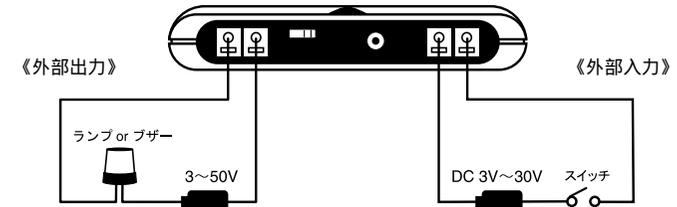
4. モデムポートに AC アダプタを接続し、電源を入れます。
5. 全ランプが点灯し、しばらくすると『Power』ランプだけが点灯します。



エラーランプが点滅した場合は、もう一度、『2.』からやり直してみてください。
まだ点滅する場合は、そのカードは使用できません。

10秒以上たっても全ランプが点灯または、上下限值以外のランプが点灯している時は、電源を入れ直して下さい。

6. 電話番号と警報の設定を行って下さい。
(「警報設定」- 2 - ~ を参照して下さい。)



外部出力端子は、警報動作に連動しランプ・ブザー等 現場で確認できる外部機器に接続することが可能です。

警報状態になると接続したランプまたは、ブザーが動作します。
温度・湿度が正常値に戻るか、外部入力がなくなると止まります。モデムポートのブザー OFF ボタンを押しても止まりません。

外部入力端子は、サーモレコーダ以外の外部からの電圧信号についても警報動作をさせることが可能です。

電圧が入力されると、警報が指定のパソコンなどに発信されます。
外部入力の監視については、ソフトウェアより設定をします。

【仕様】

外部入力...3V 以上の入力で警報

入力電圧	DC3 ~ 30V
入力電流	3mA 以下
入力インピーダンス	10k
警報監視周期	1秒

外部出力...警報時 ON

オフ時の電圧	AC/DC50V 以下
オン電流	0.1A 以下
オン抵抗	35

使用電線 (入出力共通)

適合電線単線	1.0 (AWG18) 撚線 0.75mm ²
使用可能電線	単線... 0.4 ~ 1.0 (AWG26 ~ 18)
	撚線...0.3 mm ² ~ 0.75 mm ² (AWG22 ~ 20)
	素線径... 0.18 以上
標準むき線長さ	10 mm
コネクタ操作用適合工具	マイナスドライバー (軸径: 3、刃先巾: 2.6)

アンインストール

再インストールする場合は、アンインストールを行ってからインストールして下さい。また、アンインストールする際は、アンインストールするアプリケーションおよび、他のアプリケーションも終了させてから実行して下さい。

- 1 .Windowsのタスクバーから[スタート]ボタンをクリックし、表示されたメニューから「設定」-「コントロールパネル」を選択します。

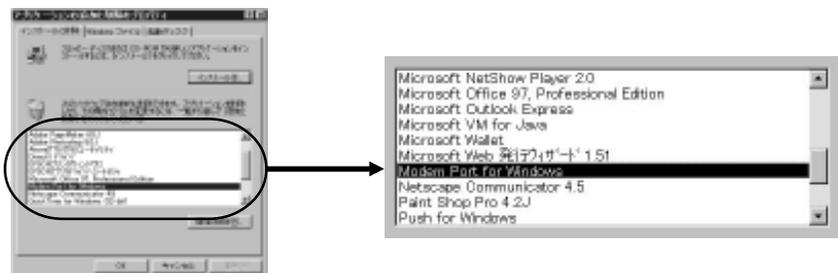


- 2 .コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

- 3 .アプリケーションの追加と削除のプロパティが表示されます。



- 4 .「セットアップと削除」のリストから削除する「Modem Port for Windows」を選択します。



- 5 .[追加と削除]ボタンをクリックすると、確認メッセージが表示されます。



- 6 .[はい]ボタンをクリックすると、アンインストールが開始されます。

- 7 .アンインストールが終了したら、[OK]ボタンをクリックします。



- 8 .「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」の[OK]ボタンをクリックすると、アンインストールは終了します。



困ったときは

パソコンとの通信中に表示されるメッセージ

Q:『モデムが応答しません』と表示される

モデムが正しく接続されているか確認して下さい。

モデムの電源が入っているか確認して下さい。

Windows にモデムをインストールした時の通信ポートと異なるポートにモデムを接続していないか確認して下さい。

Q:『通信ポートが開けません』と表示される

他のソフトウェアで通信ポートを使用していないか確認して下さい。

パワーマネージメントなどの設定で通信ポートが使用できない状態になっていないか確認して下さい。

通信ポートの割り込み (IRQ) 番号、I/O アドレスなど他の装置と競合していないか確認して下さい。また、パソコンにより同時に使用できない通信ポートがありますのでどちらかを使用不可に設定して下さい。

カードモデムや内蔵モデムにおいて、インストール時の通信ポートと現在の通信ポート番号が同じか確認して下さい。一部の内蔵モデムでは、通信ポートを使用する機器をインストールすることで、通信ポートの番号が変更されて使用できなくなるものがあります。

Q:『無効なコマンドです』

モデムが Windows に正常にインストールされているか確認して下さい。Windows へのインストールは使用するモデムと品名、型番が異なっても正常終了する場合がありますが、『Modem Port for Windows』は、インストール時に作成されるセットアップ情報とモデムの動作が異なると『無効なコマンドです』または、『モデムが応答しません』と表示し、通信を行いません。

『回線 / モデムの設定』ダイアログ『初期化コマンド』の設定に誤りがないか確認して下さい。

Q:『発信音が検出できません』と表示される

モデムと電話回線が正しく接続されているか、モジュラージャックが外れてないか確認して下さい。

内線 (構内交換機) を使用している場合または、発信音 (ダイヤルトーン) が一般公衆回線と異なる場合は、『回線 / モデムの設定』で『トーンを検出してダイヤル』のチェックを外して下さい。

一般公衆回線の場合、回線種別に『パルス』と『トーン』があります。『回線 / モデムの設定』の回線設定が正しく設定されているか、確認して下さい。

Q:『話中です』と表示される

ダイヤルした相手の回線が使用中です。

Q:『電話がつながりません』

モデムポートが正しく接続されていることを確認して下さい。

モデムポートに AC アダプタが接続されているか確認して下さい。

ダイヤル先の電話番号を確認して下さい。

Q:『ダイヤルに失敗しました』

回線種別には『パルス』と『トーン』があります。『回線 / モデムの設定』の回線設定が正しく設定されているか確認して下さい。

『回線 / モデムの設定』の『ダイヤルコマンドを指定する』の設定は、通常チェックを外し、設定しないで下さい。

パソコンまたは、パソコンとモデムの組み合わせによっては、データターミナルレディが ON にならない場合があります。多くのモデムはデータターミナルレディの ON・OFF により回線を切るなどの設定があります。この設定が有効になっており、データターミナルレディが OFF の場合にダイヤルできないことがあります。

このような場合は、モデムをデータターミナルレディ (DTR または、ER) を無視する (または常に ON する) に設定して下さい。『回線 / モデムの設定』の初期化コマンドに、該当する AT コマンド (多くのモデムは、& D[n] です) を入れて下さい。

3 分以内に同じ番号にダイヤルできる回数を 2 回までに制限しているモデムがあります。モデムの取扱説明書をご覧ください。

電話した相手がモデムを使用していないまたは、正常にダイヤルできないことが連続して起きるとダイヤルできなくなるモデムがあります。解除方法はモデムにより異なるので使用しているモデムの取扱説明書をご覧ください。

製品仕様

【モデムポート TR-57M】

適合機種	TR-7シリーズ、TR-5シリーズ (Jr. ポートが必要)
警報入力	DC3 ~ 30V、3mA 以下 (ON/OFF 信号)
警報出力接点	AC/DC50V 以下、0.1A 以下
ブザー	動作異常、警告ブザー (ON/OFF 設定可能)
設定データの記憶	不揮発性メモリにすべての設定を記憶
動作状態表示	LED ランプにて表示
ダイヤル形式の選択	プッシュ、ダイヤルをスイッチにて選択
電源	専用 AC アダプタ (付属)
電話回線接続方法	専用ケーブル (付属)
本体使用環境	0 ~ 55 °C、90%RH 以下、結露しないこと

《電話回線インターフェイス部》

適用回路	アナログ公衆回線 (2 線式)
電話回線用インターフェイス	2 線式モジュージャック
ダイヤル形式	ダイヤル / プッシュ切替可能
NCU 形式	自動発着信
通信速度	9600bps
通信規格	ITU-T/V.23/V.22bis/V.22/V.21 海外での動作確認はしていません

【ソフトウェア (Modem Port for Windows®)】

動作環境	Microsoft® Windows® 95 /98 日本語版の動作するパソコン ディスプレイ (256 色表示以上) パソコン用モデム (2400bps 以上) カラープリンタ、アナログ公衆回線 (2 線式) その他の周辺装置
------	--

【その他付属品】

専用電話回線接続ケーブル	1 本	モデムカード	1 枚
AC アダプタ	1 個	TR-7 シリーズ用ポケット	1 個
ポケット装着用シール	1 枚	本体取付プレート (ネジ 2 本付)	1 枚
取扱説明書 (保証書)	1 部		

オプション

【Jr. ポート TR-05M1】

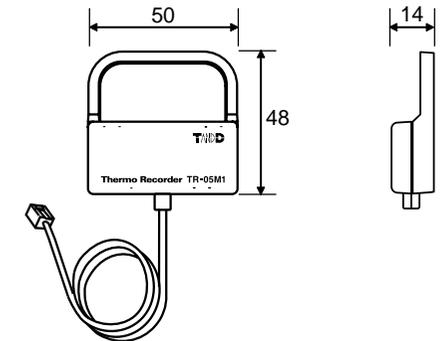
TR-5 シリーズをモデムポートへ接続します。

通信方式：光通信方式 (TR-51A/52 間の通信)
外形寸法：H48 × W50 × D14 mm (突起部除く)
重量：約 45g (TR-05M1 本体のみ)

ケーブル長：2 m

使用環境：-20 ~ 70 °C (温度) 90% 以下 (湿度)

付属品：モジュラ中継コネクタ 1 個



製品に関するお問い合わせ先

株式会社 **ティアンドデイ**

〒399-0033 長野県松本市笹賀 5652-169 TEL:0263-27-2131
FAX:0263-26-4281

【お問い合わせ受付時間】 月曜日～金曜日 (弊社休日は除く)
9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00

ホームページアドレス <http://www.tandd.co.jp/>
E-Mail アドレス info@po.tandd.co.jp